

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372801037		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム康寿苑		
所在地	熊本県上益城郡嘉島町上六嘉2268		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成25年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

場所は手足の守り神として知られる足手荒神のすぐ隣に位置し、小学校や住宅地が立ち並ぶ自然豊かな大変恵まれた環境にあります。「小規模多機能事業所」との併設施設で、また、地域の縁側「どぎゃんね」も同じ敷地内にあり、利用者間の交流や合同行事のほか、地域の訪問も多くあります。近隣に協力病院と同法人の特養があり、医療面や緊急時の協力体制が整っており、入居者や家族、スタッフの安心に繋がっています。また、楽しみのひとつであり食事は、スタッフと入居者が一緒に買物に出かけ、その時に食べたい物をお聞きし提供しています。また、法人には自家農園もあり取れたての野菜も「安心・安全・美味」と好評です。今後も入居者、家族、スタッフ、そして地域が一丸となり、「利用者本位」の理念のもと感謝の気持ちを忘れず、共に支えあう関係作りに努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所のすぐ隣りに手足の守り神として知られている足手荒神があります。大祭の時などは、大変多くの方が参拝され、利用者に声を掛ける知人・友人も多いそうです。また、地域の縁側「どぎゃんね」も同じ敷地内にあり、そこでは日常的にダンス教室、クラフト教室、子育てサークル等の集まりが行なわれています。ここを利用される方も、事業所に声を掛けられます。このように恵まれた環境や取り組みが、事業所が地域に受け入れられ、利用者が地域とのつながりながら暮らし続けられる大きな所似だと思えます。また法人は、自家農園を所有しております。そこでは専門の職員が、四季折々の野菜を栽培しています。食べる事が、何よりの楽しみである利用者にとって「安全・安心・美味」の新鮮食材は、食事を楽しむことが出来る何よりの支援だと思えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフで考えた理念を掲げ、毎月のミーティングで振り返りを行い意識の統一をしている。毎朝の朝礼時では唱和し、気持ちを引き締め一日の業務を開始している。	理念は「今この一瞬を仲間と共に楽しく生きよう」で始まり、健康の大切さ、真心と笑顔での支援、また地域の方々との出会い・ふれあいの大切さについて書かれており、最後によく学び、チャレンジ精神を忘れずに結ばれている。毎日の朝礼で唱和し、また毎月のミーティングでは振り返り、意識統一の機会としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の際は地域への呼びかけも行い、もちつき会、敬老会等へ多数参加協力をしていただいている。また、小学校行事へも参加し交流を行っている。	事業所は自治会に入会し、地域の方々との交流に取り組んでいる。また、同敷地内にある地域の縁側「どぎゃんね」を地域の方々に開放しており、そこでは子育てサークル等の日常的な住民同士の交流が行なわれている。また事業所が行なう餅つき大会や敬老会等には、民生委員や老人会長、小学生など多数の方々に参加しているそうです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向け、毎月いろいろなテーマで教室を開催している。また、老人会へも定期的に参加し勉強会や体操等を一緒に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は開催しており、入居者の状態、行事や勉強会の内容報告避難訓練の実施状況等を報告している。	2ヶ月に1回行なわれており、老人会長、民生委員会、社会福祉協議会局長などがメンバーとなっている。内容は、利用者の状況報告や事業所の取り組み等について報告し、意見をもらっている。またミニ勉強会の場もなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居に関しての報告や相談をその都度行っている。運営推進会議の報告も資料提出というかたちでおこなっている。	町担当者の運営推進会議への出席はないが、資料提出と共に報告に出向いている。また年に1回は、町の係長と保健師から介護プランのチェックや指導を受け、一緒に考える機会を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒等の危険性が高い入居者の方も多数いるがスタッフで拘束以外の予防策を考え取り組んでいる。勉強会やミーティングにおいて取り組む姿勢を話しあっている。	年1回は、法人主催の全体勉強会が行なわれている。また内部の勉強会やミーティングでは、拘束以前の対応、見守りや察知の向上について話し合っている。玄関の施錠については、防犯上の観点から夜間のみ行なっている。	

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞や県からの冊子を用いて、ミーティングで勉強会を開催している。スタッフ同士でも注意しあえる環境作りを心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や施設内研修において実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行っている。疑問に思うことや不安なことは理解を得るまで説明を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にて意見交換やアンケートを活用して要望等反映させている。また苦情ノートも作成しており、それを通しスタッフの意識を高め質の向上に努めている。	家族会が年1回、敬老会の時に行なわれている。事前に家族連絡会アンケートを配布し、敬老会当日に回収している。出来るだけ忌憚のない意見の収集に努めている。また苦情シートも作成しており、真摯に受け止める。サービスの質の向上につなげるようにしている。	家族からは、なかなか本音が言いにくいものだと思います。今後とも、意見や要望の言いやすい環境づくりに取り組んで欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とスタッフの距離感を大事にして常に話しやすい雰囲気を作っている。スタッフの性格面も考慮しながらコミュニケーションを図っている。	管理者は、日頃からスタッフとのコミュニケーションの大切さを実感しており、話し易い雰囲気作りを心掛けている。また、年に2回は個人面談も行なっており、意見や提案等を聞く機会としている。これまでにスタッフの提案で、スロープを設置したり、花壇を整備したり、パラソルやイスの設置を行なったりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、個別にて面談を行い、向上心を持って働けるよう目標の設定を行い、達成の状況に応じ賞与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ自らテーマを決め勉強会を開催しており、そのことが能力や知識の向上に繋がっている。また、定期的な法人内研修の開催と外部研修への参加をしてレベル向上に努めている。		

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡内の研修会に定期的に参加しており、その場において相談や情報交換ができています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の情報からニーズを探りできるだけ希望に添えるよう心掛けている。ニーズの調査には書式等も活用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面談時においてニーズの把握に努め家族の要望等を理解するよう心掛けている。事業所の活動や日々の生活についてもその時に説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、当事業所だけでなく、法人全体のサービスやその他の介護サービスも視野に入れ初回の面談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を基本にし、現在の状態を維持できるように残存機能の活用を意識したケアを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や外出支援の付き添いにも声をかけ協力をしてもらっている。 また、家族しかできない精神的な部分でのケアの大切さを共に理解し支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩を積極的に行い、その際の地域の皆様との会話やふれあいを大事にしている。 各老人会からの慰問もあり、声をかけてもらっている。	事業所の隣接に足手荒神があり、大祭の時等は、大勢の方が参詣され、帰りの際には声を掛けられるようである。また老人会からの慰問では、結構知人や友人が来訪されているようである。	

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの座席や休憩時の過ごし方等配慮しながら、利用者同士の関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去になっても家族の相談やフォローを行っており、再度法人内の事業所に繋がるケースも多くある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居から徐々に関係を築いていき、その中で希望等を把握し、そのことをスタッフで共有し日々のケアに活かすように努めている。	徐々に関係を築いていき、コミュニケーションの端々から思いや意向の把握に努めている。また、月に1回はケース会議を行ない、この行動がどこから来ているものなのかなど、家族からの聞き取りも交えて考慮した上で、ケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話の中から、情報の収集に努め、生活環境のやこれまでの習慣等把握するよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの性格や他者との関係を把握しその人にあった過ごし方を提供できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態や希望、家族の希望を話し合い計画に反映させるよう努めている。また、月に1回はモニタリングを実施し状態把握をしスタッフで情報を共有している。	本人の希望・状態を確認した上で、家族も含めて話し合い、必要な場合は専門医の指導も仰ぎながら、介護計画を作成している。また月に1回は全利用者のモニタリングを行ない、現状に即した介護計画になるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の確認や朝礼時に申し送りを行い、情報を共有している。また、ケース会議を開催し個々のケアについても話し合いプランに反映させている。		

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人や家族の状況、希望を考え法人内の事業所や他事業所と協力をしてサービス提供にあっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に囲基ボランティアとしてお手伝いをしていただいたりや本人がこれまで関わってきた人達に協力をしてもらおう等、共に支えあっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外であってももちろん可能であり、主治医とも手紙等を通じ情報交換に努めている。	基本的には、本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。現在内科的には、全利用者が協力医をかかりつけ医としている。受診支援については、スタッフが対応している。また、6名の方が認知症の専門医の受診をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回は協力医療機関の看護師の訪問もあり、その際に日頃の状況等の情報交換はできており、早期対応に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃から担当医、看護師との連携を図っており本人や家族が安心して入院生活が送れるよう支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より、入居者の健康状態について医師や看護師と連携を密にし、状態変化があった場合には本人、家族の希望を考慮しながら関係者で対応を協議しながら終末期に向けた支援を行っている。	重度化については日常的に医療行為が必要になった場合と定義している。今のところ看取りは行っていないが、医師や看護師また家族と連携を取りながら、出来る限り終末期に向けた支援を行ってほしいと管理者は考えている。現在も、そのような利用者がおられる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会において救急法やその他の対応方法については学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難・通報訓練を実施するとともに日頃よりスタッフに対しての指導も行っている。 運営推進会議でも議題にあげ一緒に考え取り組んでいる。	避難・通報訓練は、年2回実施している。うち1回は消防署の指導の元、実施している。全スタッフが1回は参加できるように、夜勤スタッフも参加出来る午後4時30分から行っている。ちいきからは、民生委員会会長が参加されている。	運営推進会議で一緒に考えている事は、いい取り組みだと思います。今後、より多くの地域の方々の訓練への参加と自主訓練の回数増に取り組んで欲しいと思います。また、非常時の備えについても検討も取り組んでもらいたいと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳については管理者より毎回ミーティングで話している。また、言葉遣いに関しては、スタッフ同士でも注意しあえる環境作りを目指し取り組んでいる。	利用者一人一人の人格を尊重した接遇についての勉強会が、法人主催で年1回行なわれている。また尊厳については、管理者よりミーティングの中で毎回話しをしている。また言葉使いについては、気付いた時にスタッフ同志で、気軽に注意しあえるような環境作りを目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「利用者本位と自立支援」を意識し、一人ひとりに合わせたケアを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事時間等本人の時間に合わせたケアが提供できるよう、家族等からも情報収集をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に服装は本人に選んでいただく等、気持ちを尊重したケアを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い出しや調理、後片付け等出来る方は一緒にしている。 キッチンも近く包丁の音や料理の香り等作る段階から楽しみにしていただいている。	3・4名の方が、買い出しから調理、後片付け、食器洗い等をスタッフと一緒に一緒に行なっておられる。また、野菜については、法人が農園を所有しており、かなりの部分がそこからの供給となっている。その他、梅干しや白菜漬けも自家製となっており、食事を楽しくいただけるような支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事量や形態の提供を心掛けている。また、チェック表を作成し状態把握にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがい、毎食後のケアを徹底しており、個人の状態、要望に応じた口腔ケアを心掛けている。		

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、自立や声かけ、誘導等個々に応じ支援している。パターンを把握はミーティング時にスタッフそれぞれの気づき等を出し合い情報を共有しケアに繋げている。	排泄管理表をつけており、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。また、ももぞする、機嫌が悪くなる、立ち上がる、食事が進まない等の利用者一人一人の特徴にも注意を払い、支援している。ほとんどの利用者が、昼間は布の下着を着用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食物繊維等で予防している。また、医師にも相談し状態によっては内服薬を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回～3回のペースで基本午後から実施している。その日の健康状態や希望にてゆったりと個別にて対応している。また、順番も個々の性格等を配慮している。	回数は、夏が週に3回、冬が週に2回のペースで支援している。時間は、午後2時から午後4時を目安としている。但し、必要な場合はその都度対応している。利用者の性格などにもは配慮しながら、支援している。また、ゆず湯やしょうぶ湯等の文化的慣例も取り入れながら支援を行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調整や照明にも本人の希望を聞く等して心地よい環境作りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルにはそれぞれの処方せんを閉じており、常に全スタッフが効能、用量等を把握できるようにし、誤薬等も無いよう心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や買い物、庭木の手入れ等、それぞれの方が自分の仕事として日々の日課にされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気等に応じ、積極的に散歩に出かけるようにしている。また、買物や定期の病院受診も散歩を兼ねて出かけ季節を感じていただいている。外出行事は計画から利用者にも参加してもらい、希望を取り入れている。	利用者の体力にもよるが、散歩コースを3コース用意しており、積極的に支援している。片道5分の定期受診は天気がいい日を利用して、車いすの方も歩行の方も散歩を兼ねて支援している。また外出行事は、計画の段階から利用者に参加してもらうようになっている。その方がより楽しい外出になるからとの事である。	

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常に自由に使用できる環境である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話の使用は可能である。また、家族からの連絡時には取次し支援を行っている。手紙に関しても支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で親しみやすい雰囲気をだすため花やひな人形等季節を感じる飾り付けを心掛けています。またリビングからの景観も良い環境である。庭園にも花壇を設置し野菜の手入れ等も自由にさせていただいている。	共用空間は季節の花を飾ったり、壁面を利用して季節を感じる飾り付けを行ったりしている。使用者の皆さんが集まれるリビングは、南面に大きな窓が設計されており、とても明るく、太陽の日差しが奥まで差し込み、温もりのある空間となっている。また、窓から眺める梅の花はとてもキレイだったそうです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりお好みの居場所があり、同じ環境でゆっくりくつろぐことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や布団等を使用してもらい、少しでも安心感をもってもらい、居心地が良い環境作りを心掛けている。	ベッドと空調機器は標準装備となっています。居心地よく過ごせるよう、使い慣れた家具や布団等を使用してもらうことを進めています。壁面を利用して家族写真等を貼り、居心地良く過ごせるよう工夫がしてありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを掲示することにより、より分かりやすく自由に行き来できるよう支援を行っている。また、手すりの設置により、安全に自由に行動していただけるよう心掛けている。		